

有機農業

農薬・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産、地場産の供給拡大

その他

J A 大井川いちご部会グリサポ推進協議会（静岡県焼津市）



【取組主体】JA大井川、JA大井川いちご部会、志太榛原農林事務所、焼津市

【JA大井川いちご部会】部員数41名（R5.3月現在）
生産面積786.1a

「紅ほっぺ」、「きらぴ香」を生産



【取組】グリーンな栽培体系への転換サポート（令和3年度補正予算）を活用し、天敵資材導入は10名、179aを、UV-B資材導入は2名、32aを実証

■ 取組の特徴

①天敵資材の導入

アブラムシ対策として天敵昆虫（アブラバチ）がアブラムシに寄生することで発生を抑制する。その際、いちごに害のないアブラムシを小麦などの植物に多数寄生させ（＝バンカープラントという）、アブラバチの餌を確保し、増殖を促す。

②UV-B資材の導入

特定の紫外線を照射することで、農作物の病害抵抗性遺伝子が活性化され、植物の免疫機能が向上し、うどんこ病などの発生を抑える。

①②により安定した生産を確保するとともに、化学農薬の使用量低減と、作業工程の削減を図る。

■ 取組のきっかけ

温暖化によりアブラムシとうどんこ病の被害が増加している中で、農薬使用の低減を図り、今までよりも労力を軽減でき、変わらぬ品質を維持できる新技術を確立し、普及する必要性を感じた。

■ 取組のメリット

病害虫の発生が抑制され、いちごの安定生産が図れるとともに、防除回数を減らせ、省力化が図られた。

◎ J A 大井川では、いちごの天敵資材、UV-Bのような取組を他の品目にも広げていきたい。

UV-B資材



事務所所在地 静岡県藤枝市緑の丘1番地の1
電話番号 054-646-5127

HPアドレス <https://ooigawa.ja-shizuoka.or.jp>